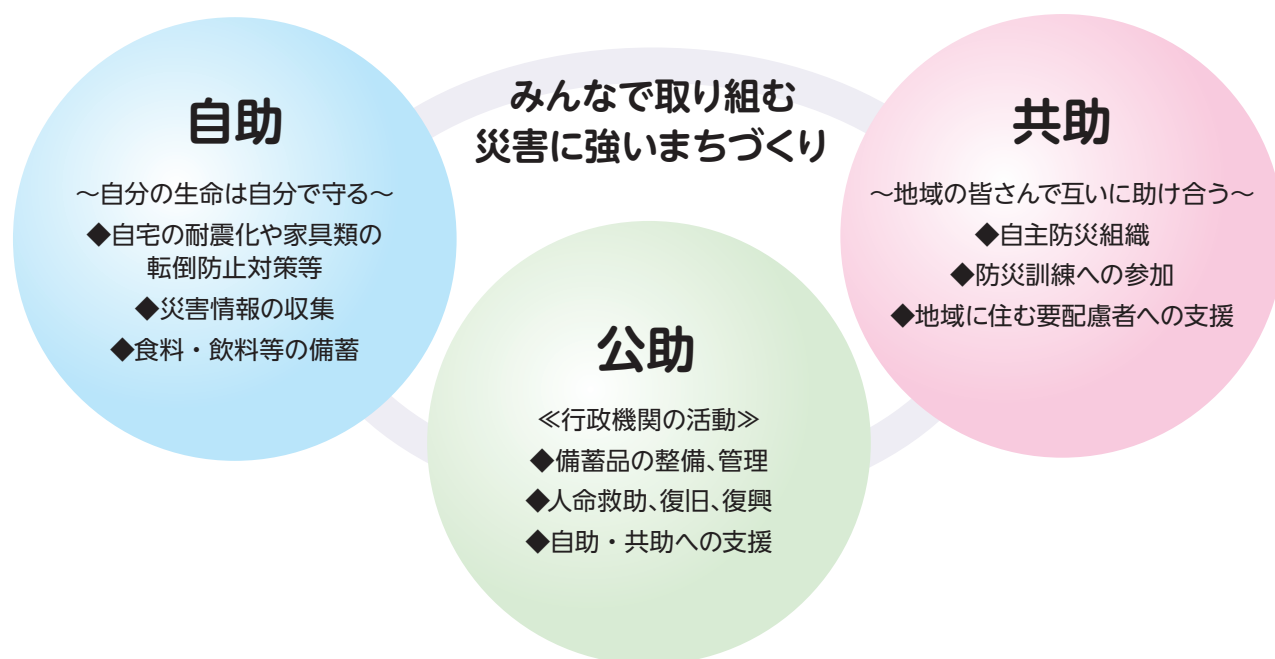


## 防災マップとは

西和賀町防災マップは、和賀川・横川が大雨で増水し、河川がはん濫した場合の「浸水想定区域」と、がけ崩れや土石流・地すべりにより、住民や家屋に被害が生じるおそれのある「土砂災害警戒区域」のほか、町指定の避難場所や避難所を示しています。また、防災情報の解説や、家庭での備蓄品、非常時持ち出し品の準備など、災害への備えの基本となる情報を掲載しています。家庭や地域での避難体制づくりや危険の回避など、自分自身と家族の安全を守るために、防災マップをご活用ください。

## 地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の救助・支援の「公助」の取り組みが必要です。大規模災害時では、公助の機能に限界がありますので、「自助・共助・公助」が連携することにより、住民と行政が一体となって地域防災力を高めることが重要となります。いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災についての意識を高めましょう。



## 防災マップの使い方

### 自宅の位置を確認



自宅がある場所や周辺が、浸水想定区域や、土砂災害警戒区域に含まれるか、地図ページで確認しましょう。

### 付近の避難所を確認



自宅に一番近い避難所を地図ページで確認しておきましょう。

### 避難経路の設定



避難場所、避難所までの経路を決めましょう。浸水が深い場所や土砂災害のおそれがある範囲を避けて、複数の避難経路を設定することが重要です。

### 避難経路を歩いてみる



あらかじめ決めておいた避難経路が、安全に通行できるか、実際に歩いて確認しておきましょう。

# ！警戒レベルを用いた避難情報

**警戒レベルについて** 警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

| 避難情報等<br>(警戒レベル)               |                  |                                                                                                                                                                  |              | 河川水位や雨の情報<br>(警戒レベル相当情報)  |                  |
|--------------------------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------------|------------------|
| 警戒<br>レベル                      | 状況               | 住民がとるべき行動                                                                                                                                                        | 避難情報等        | 防災気象情報(警戒レベル相当情報)         |                  |
|                                |                  |                                                                                                                                                                  |              | 浸水の情報(河川)                 | 土砂災害の情報(雨)       |
| 5                              | 災害発生<br>又は切迫     | <b>命の危険 直ちに安全確保！</b><br>・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。<br>・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません！<br>・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。 | 緊急安全確保       | 5<br>相当<br>氾濫発生情報         | 大雨特別警報<br>(土砂災害) |
| ~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難！ > ~~~~~ |                  |                                                                                                                                                                  |              |                           |                  |
| 4                              | 災害の<br>おそれ高い     | <b>危険な場所から全員避難</b><br>・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。                                                                    | 避難指示         | 4<br>相当<br>氾濫危険情報         | 土砂災害<br>警戒情報     |
| 3                              | 災害の<br>おそれあり     | <b>危険な場所から高齢者等は避難</b><br>・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。<br>・さらに、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。                                       | 高齢者等避難       | 3<br>相当<br>氾濫警戒情報<br>洪水警報 | 大雨警報             |
| 2                              | 気象状況悪化           | 自らの避難行動を確認                                                                                                                                                       | 大雨・洪水<br>注意報 | 2<br>相当<br>氾濫注意情報         | ———              |
| 1                              | 今後気象状況<br>悪化のおそれ | 災害への心構えを高める                                                                                                                                                      | 早期注意情報       | 1<br>相当<br>———            | ———              |

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「自分で判断する」ということです。

**警戒レベル5**はすでに災害が発生・切迫している状況です。また、必ず発令されるものではありません。

**警戒レベル3 高齢者等避難**や**警戒レベル4 避難指示**で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。



(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

# i 防災気象情報

## 土砂災害警戒情報について

大雨警報の発表中に、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象台から共同で発表されます。詳細な範囲については「危険度分布」で確認できます。しかし、特に警戒区域周辺にお住まいの方は、実際の周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、危険を感じたら、迷わず自主避難を行いましょう。



## 記録的短時間大雨情報について

大雨警報の発表中に、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨が観測された時に、気象台から発表される情報です。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかを「危険度分布」も合わせて確認してください。



## 雨の強さと降り方

| 予報用語    | 1時間雨量 | 人の受けるイメージ              | 人への影響            | 屋内                 | 屋外の様子                                        | 運転中            |
|---------|-------|------------------------|------------------|--------------------|----------------------------------------------|----------------|
| やや強い雨   | 10～20 | ザーザーと降る                | 地面からの跳ね返りで足元がぬれる | 雨の音で話し声が良く聞き取れない   | 地面一面に水たまりができる                                | —              |
| 強い雨     | 20～30 | どしゃ降り                  | 傘をさしていてもぬれる      | 寝ている人の半数くらいが雨に気がつく | 道路が川のようになる                                   | ワイパーを速くしても見づらい |
| 激しい雨    | 30～50 | バケツをひっくり返したように降る       |                  |                    | 高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象) |                |
| 非常に激しい雨 | 50～80 | 滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)     | 傘は全く役に立たなくなる     |                    | 水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる                    | 車の運転は危険        |
| 猛烈な雨    | 80～   | 息苦しくなるような圧迫感がある 恐怖を感じる |                  |                    |                                              |                |

(1時間雨量：mm)

## 風の強さと吹き方

| 予報用語   | 平均風速  | およその時速 | 人への影響                                  | 屋外・樹木の様子                                       | 走行中の車                                 | 建造物                                                                  | およその瞬間風速 |
|--------|-------|--------|----------------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------|
| やや強い風  | 10～15 | ～50km  | 風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。                  | 樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。                           | 道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。 | 樋(とい)が揺れ始める。                                                         | 20       |
| 強い風    | 15～20 | ～70km  | 風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。   | 電線が鳴り始める。看板やタン板が外れ始める。                         | 高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。              | 屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。                                     |          |
| 非常に強い風 | 20～25 | ～90km  | 何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。 | 細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。 | 通常で速度で運転するのが困難になる。                    | 屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。 | 30       |
|        | 25～30 | ～110km |                                        |                                                |                                       |                                                                      |          |
| 猛烈な風   | 30～35 | ～125km | 屋外での行動は極めて危険。                          | 多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。      | 走行中のトラックが横転する。                        | 固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。                                | 40       |
|        | 35～40 | ～140km |                                        |                                                |                                       | 外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。                                       | 50       |
|        | 40～   | 140km～ |                                        |                                                |                                       | 住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。                                        | 60       |

(風速単位：m／秒)

## 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

| 大きさ         | 風速 15 以上の半径     | 強さ    | 最大風速      |
|-------------|-----------------|-------|-----------|
| 大型(大きい)     | 500km以上 800km未満 | 強い    | 33以上 44未満 |
| 超大型(非常に大きい) | 800km以上         | 非常に強い | 44以上 54未満 |
|             |                 | 猛烈な   | 54以上      |

(風速単位：m／秒)

(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)





# 洪水・浸水害について

## 氾濫の種類

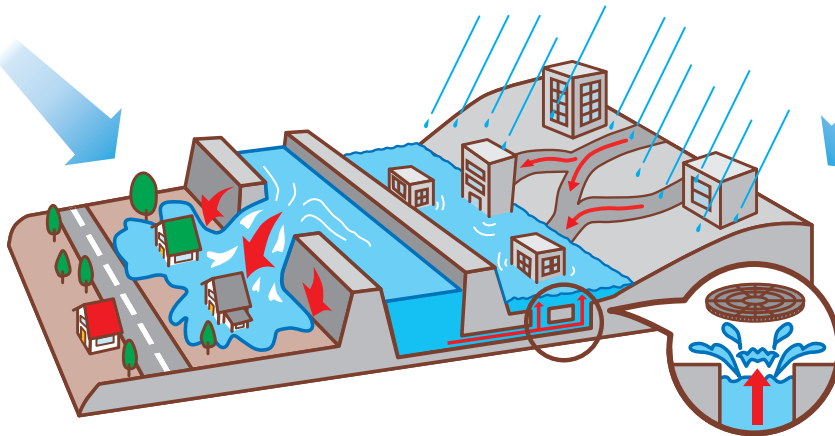
雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。

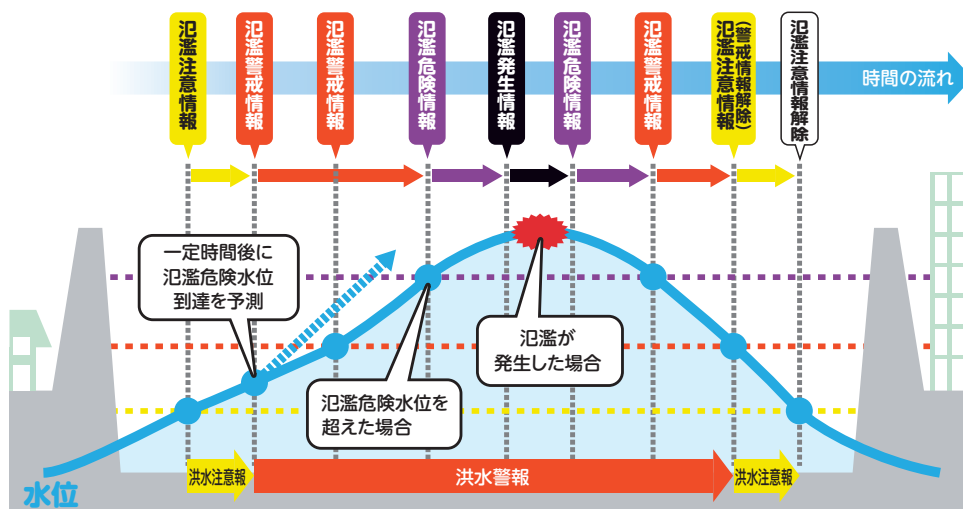
### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。



## 河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。市町村はこの情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。



| 河川名            | 和賀川 |
|----------------|-----|
| 観測所            | 新町  |
| 氾濫危険水位(レベル4水位) | 2.3 |
| 避難判断水位(レベル3水位) | 1.1 |
| 氾濫注意水位(レベル2水位) | 1.1 |
| 水防団待機水位        | 0.5 |

(単位：m)

## 避難行動のポイント、危険な場所

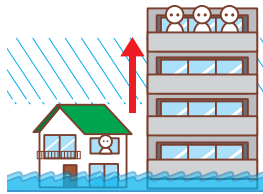
### ！ 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



### ！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に避難する。



### ！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



### ！ 川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子を確認は、市町村などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。



### ！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。



### ！ アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。



(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

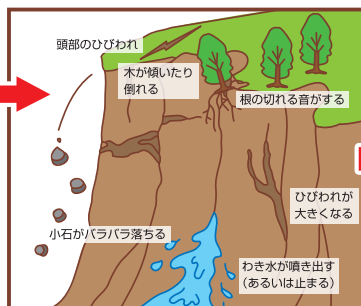
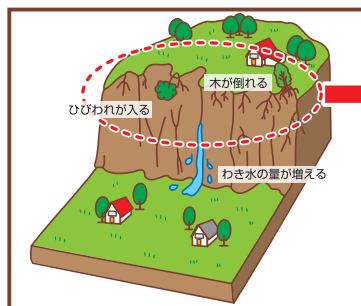


# 土砂災害について

## 土砂災害の種類

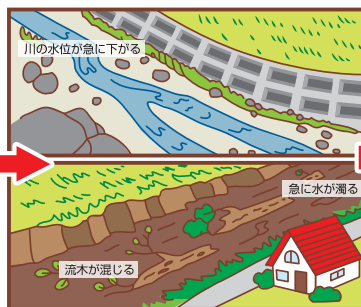
### がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



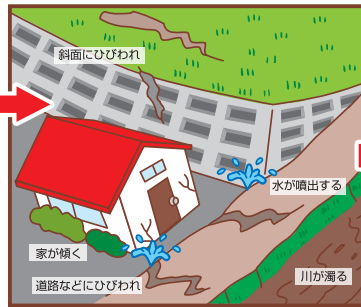
### 土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいので、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

## 土砂災害の警戒区域

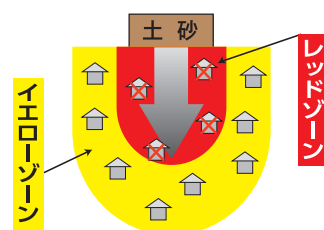
土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域



## 避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。

上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。

2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。



3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。



# 地震対策について

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル



### ！とにかく自分の身を守ろう！

#### 地震だ！ まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。



### ！しっかり火の始末で、火災防止！

#### 大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気ブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。



### ！わが家の安全確認、確保！

#### 火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。



### ！隣近所の安否確認、助け合い！

#### 外に出たあと

家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。



### ！2、3日は自分でしのぐ！

#### 避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品（非常用品）を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

## 屋内にいた場合

### 家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに（コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに）。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない（ガラスの破片などでケガをする）。

### デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

### 劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。

### 集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



## 屋外にいた場合

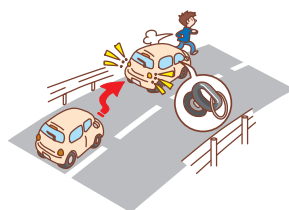
### 路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



### 車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



### 海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

### 電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。





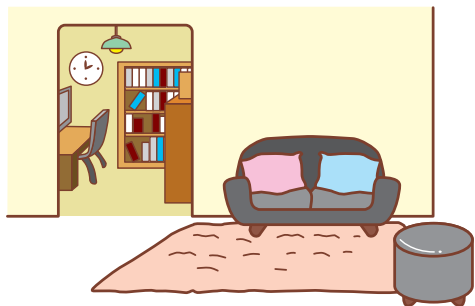
# わが家の防災対策

## 家の中の安全対策

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

### ！ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



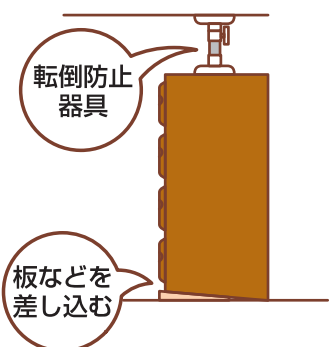
### ！ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないように、向きや配置を工夫する。



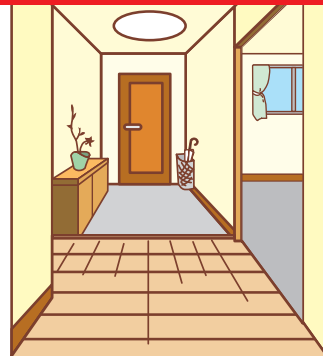
### ！ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



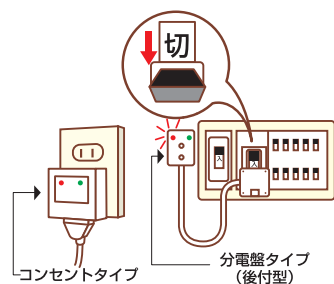
### ！ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



### ！ 電気火災発生の防止

地震による火災の原因の多くは電気が関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災（破損した電気コードのショートによる出火など）がある。電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



### ！ 手の届くところに防災品を備える

夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。

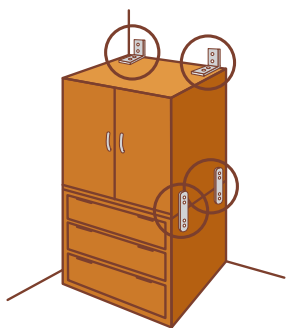


## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

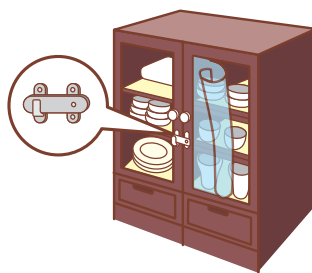
### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



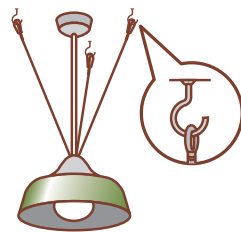
### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



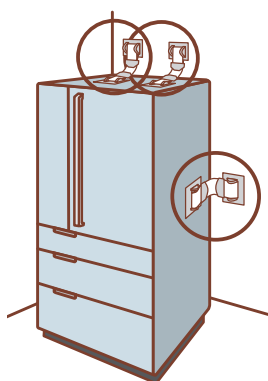
### 照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



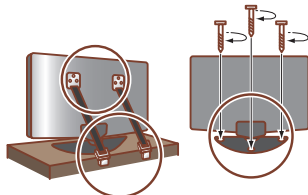
### 冷蔵庫

所定の取り付け場所（運搬用取っ手など）を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



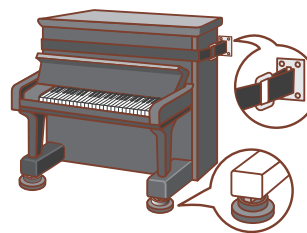
### テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。



### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



## 家の周囲の安全対策

●以下のポイントをチェックし、適切に補修を行ってください。

### 屋根

不安定な屋根のアンテナの補強。  
瓦のひび、割れ、ずれ、はがれがないか。  
トタンのめくれ、はがれはないか。

### 雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。  
雨戸にガタツキやゆるみはないか。  
継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。

### ブロック塀・門柱

土中にしっかりした基礎、控え壁のないものは補強。  
ひび割れや鉄筋のサビはないか。

### 外壁

板壁に腐りや浮きはないか。  
モルタルの壁に亀裂はないか。

### 側溝

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因に。日頃からの清掃を。

### 窓ガラス

強風による飛来物などに備え、外側から板でふさぐなどの処置を。飛散防止フィルムを貼る、ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。

### ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

### 非常口の確保

通路や出入口には、避難の際の妨げにならないよう、できるだけ自転車やベビーカーなどの物は置かない。

### 家の周りのもの

プロパンガスのボンベはしっかり固定されているか。  
植木鉢などは整理整頓を。  
風に飛ばされそうなものは事前に屋内へ。

## 土砂災害の予防策

●がけや斜面の近くでは特に次のようなことを心がけましょう。

斜面の状態の変化に  
十分注意しましょう。

落ちそうな岩や土のかたまりは撤去する。

崩れそうな所は木や板の柵、石積をする。

こわれた石垣などは修理や補強を。

風でゆれる大きな木は地面をゆさぶられないよう枝を切る。

がけの危険な部分はビニールなどで覆い、雨水の浸みこみを防ぐ。

雨水をがけに流さないように水路を造る。

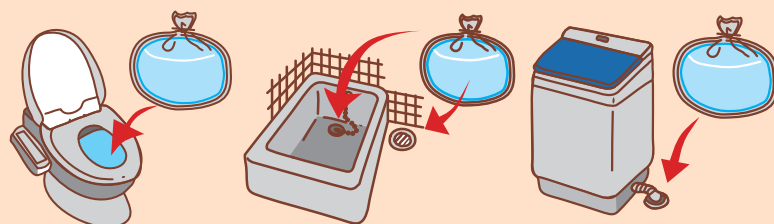
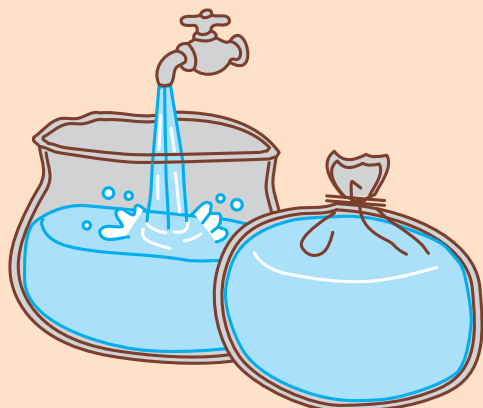
水路はゴミを掃除する。

## 住宅の浸水被害を防ぐには

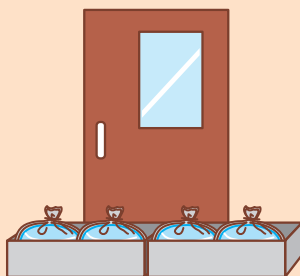
浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の浸入口となるところを塞ぐことで水の侵入を減少させることができます。トイレなどの逆流防止にも有効です。  
※実施の際には避難の妨げにならないように気を付けてください。

### 「水のう」の作り方

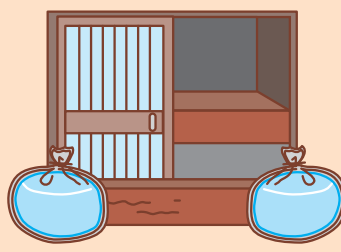
40L程度のごみ袋を二重にして半分程度の水を入れる  
空気を抜いて口をしぼる



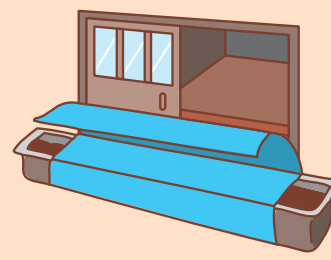
排水口からの逆流対策に



段ボール等に入れて並べる



長めの板状のものと組み合わせて止水板に



土を入れたプランターをレジャーシートなどで包むのも有効